



# HOKKAIDO UNIVERSITY

|                  |                                                                                   |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| Title            | 「てもらう」と「てくれる」                                                                     |
| Author(s)        | 山下, 好孝                                                                            |
| Citation         | 国際広報メディア・観光ジャーナル, 38, 63-75                                                       |
| Issue Date       | 2024-04-16                                                                        |
| Doc URL          | <a href="https://hdl.handle.net/2115/91792">https://hdl.handle.net/2115/91792</a> |
| Type             | departmental bulletin paper                                                       |
| File Information | Jimcts_38 (4).pdf                                                                 |



## 「てもらう」と「てくれる」

モンクット王ラカバン工科大学教授、北海道大学名誉教授

山下 好孝

山下  
好孝

YAMASHITA Yoshitaka

### abstract

### V-te morau and V-te kureru

YAMASHITA Yoshitaka

The present study examines two Japanese expressions: V-te morau and V-te kureru. These expressions are similar from a semantic point of view but are entirely different from a syntactic perspective. An animate noun phrase attached to the particle “ni” serves as an argument in the V-te morau construction. On the other hand, such a grammatical relation doesn't exist in the V-te kureru construction.

The actor in a V-te morau sentence must be an external argument, while the actor in a V-te kureru sentence can be either an external or internal argument.

Example sentences:

- Kare-ni kite moratta. (Fortunately, he came.)
- Kare-ga kite kureta. (Fortunately, he came.)
- Kaze-ga fuite kureta. (Fortunately, the wind blew.)

Finally, it is pointed out that in a conversation, the speaker and the hearer only use V-te kureru sentences to express benefactive actions between them.

## 1 はじめに

多くの日本語教育の現場で使われている教科書『みんなの日本語（第2版）』の第24課に次のような文が掲載されている。

- 1) だれにすき焼きを作ってもらいましたか。
- 2) だれが傘を貸してくれましたか。

動詞「もらう」は主に話し手が恩恵を受ける意味を表し、「くれる」は他者が話し手に恩恵を与える意味を持つとされる。ある日本語の教室で、私も同様の説明をしたのだが学生から次のような質問があった。1) 2) をそれぞれ次のように言い換えたらどうかというものである。

- 3) だれがすき焼きを作てくれましたか。
- 4) だれに傘を貸もらいましたか。

例文1) と3)、2) と4) がそれぞれ同等の意味を表すならば、これら2種類の文型を教える意味はないのではないかという疑問であった。

本研究ノートは上記の学生からの質問に答える意味もあつて執筆した。結論的には、上記の例では意味の違いはほとんど見られないが、他のケースでは「～てもらう」文と「～てくれる」には大きな使用上の差があることを示す。そして他の文型（～てほしい、～（ら）れる、～させる）などとの関連性も指摘する。

## 2 「てもらう」と「てくれる」の構文上の違い

先行研究の中にはこれら両者の根本的な構文の違いを考慮に入れず、意味的な部分のみを考察しているものがある。例えば、伊藤（2010）では、「てもらう」と「てくれる」の違いについて次のように叙述している。

- 5) 「てくれる」と「てもらう」は一般には恩恵の授受表現であるとされるが、構文上、「てくれる」文はガ格名詞が行為者になるのに対し、「てもらう」文はガ格名詞が被行為者になるという違いがある。

伊藤（2010：pp4-5）

同研究は「てくれる」と「てもらう」の違いは、行為者を「ガ格」名詞で

表すか、「二格」名詞で表すかという点を挙げている。そして次のような例文を挙げ、対比している。

- [15] a. 太郎が私に手伝てくれた。  
 b. 私は太郎に手伝てもらった。  
 c. 太郎が息子を褒めてくれた。  
 d. 太郎に息子を褒めてもらった。

伊藤 (2010 : 10)

ここで伊藤 (2010) が例としてあげている a. の文は明らかに不自然である。この文は次のように訂正すべきである。

- 6) 太郎が私を手伝てくれた。

一方、例文 [15b.] の「二格」名詞の構文上の位置づけはどのようなであろうか。

日本で広く使われている『みんなの日本語 (第2版)』の第24課に次のような表が掲げられている。

- 7) 初級日本語教科書の説明：みんなの日本語第24課

|      |              |                   |             |         |         |
|------|--------------|-------------------|-------------|---------|---------|
| わたしは | やまだ<br>山田さんに | りょこう<br>旅行の       | しゃしん<br>写真を | みせて     | もらいました。 |
|      |              | おおさかじょう<br>大阪 城 へ |             | つれて いって |         |
|      |              | ひ こ<br>引っ越しを      |             | てつだって   |         |

|              |                   |             |         |        |
|--------------|-------------------|-------------|---------|--------|
| やまだ<br>山田さんは | りょこう<br>旅行の       | しゃしん<br>写真を | みせて     | くれました。 |
|              | おおさかじょう<br>大阪 城 へ |             | つれて いって |        |
|              | ひ こ<br>引っ越しを      |             | てつだって   |        |

|      |        |               |        |        |
|------|--------|---------------|--------|--------|
| わたしは | カリナさんに | CDを           | かして    | あげました。 |
|      | カリナさんを | えき<br>駅まで     | おくって   |        |
|      | カリナさんの | じてんしゃ<br>自転車を | しゅうりして |        |

この表によると、「てもらう」の文中の「二格」名詞句 (山田さんに) は、主動詞「もらう」の補語となっている。一方「てくれる／てあげる」文においては、たとえ「二格」名詞が生起してもそれは主動詞「くれる／あげる」の補語にはなっていない。むしろ組み込まれた動詞 (見せる、貸す等) の補語として機能している。「二格」名詞が生起してもそれは主動詞「くれる／あげる」とは統語関係を結ばないのである。

つまり「てもらう」構文と「てくれる／てあげる」構文は構文自体の成り立ちが根本的に異なっていると考えられる。

ついで鄭（2013）を検討する。鄭（2013）は次の3つの文を挙げて、「てあげる／てくれる／てもらう」を分析している。

8) 鄭（2013：20）

a 男の人が 女の人に 席を 譲ってあげる。

b 男の人が 女の人に 席を 譲ってくれる。

c 女の人が 男の人に 席を 譲ってもらう。

9) 鄭（2013：20）の構造分析

(て) あげる： 与え手が 受け手に (て) あげる。  
与え動詞                  視点                  恩恵与え側→恩恵受け側

(て) くれる： 与え手が 受け手に (て) くれる。  
与え動詞                  視点                  恩恵与え側→恩恵受け側

(て) もらう： 受け手が 与え手に (て) もらう。  
受け動詞                  視点                  恩恵受け側←恩恵与え側

ここでも「二格」名詞が「～てあげる／～てくれる／～てもらう」の必須項のように記述されている。しかし、すでに述べたように「てあげる／くれる」構文では、「受け手」が「二格」名詞で表されない例が普通である。

9) 山田さんは私の引っ越しを手伝ってくれました。(恩恵の受け手：「ノ格」名詞)

10) 私はカリナさんを駅まで送ってあげました。(恩恵の受け手：「ヲ格」名詞)

すると、上記の8 a, b) の「二格」名詞は動詞「譲る」の補語であり、恩恵を表す主動詞とは直接的な統語関係を結んではいないことになる。

他の動詞の場合も考察しておく。

11) お母さんは太郎に絵本を読んでやった。

12) ??教授は学生に論文を読んでやった。

(??の記号はこの文がかなり不自然であることを示す。?は若干不自然であ

ることを、\*は文法的適格性を欠くことを示す。）

例文12) が不自然なのは「教授が学生の論文を声を出して読んだ」という解釈が生まれてしまうからである。それゆえ、次のように言わなければならない。

13) 教授は学生の論文を読んでやった。

すなわち「人に本を読む」という構文は、絵本のように朗読することを含意する。そして「二格」名詞は動詞「読む」の補語となっているのである。一方、「論文を読む」行為の中には朗読は含意されない。「恩恵」の対象を明示するには、別の格表示という手段を使うしかない。

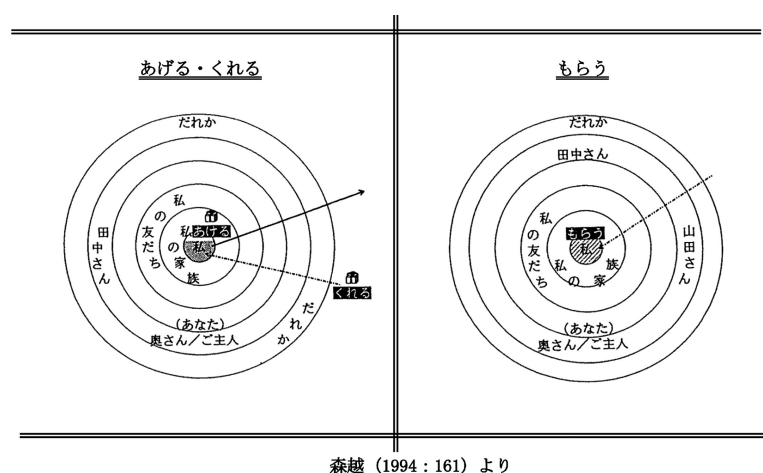
さらに、「てもらう」構文においては「二格」名詞が行為者および恩恵の与え手を表して、統語的に主動詞「もらう」と関係を結んでおり、常に生起する。

ここまでの考察から「てもらう」構文と「てくれる」構文はまったく異なる構造を有していることが明らかになった。

### 3 「恩恵」の方向性、「恩恵」の有無

恩恵を表す「てあげる」「てくれる」「てもらう」には行為の方向性の制約があることが知られている。先行研究である森越（1994）で挙げられている図でそれを確認する。

5) 「あげる」「くれる」「もらう」と方向性



日本語では話者である「わたし」および「わたしの身内」が「ウチのグループ」を形成する。そして第三者や見知らぬ人などは「ソトのグループ」を形成するとされる。聞き手である2人称のグループはそれらの中間にある。

そして授受動詞には授受の方向性に関し視点制約が存在する。

- 6) 私は友だちにプレゼントを送ってもらった。(ソト→ウチ)  
7) \*友だちは私にプレゼントを贈てもらった。(ウチ→ソト)  
  
8) 友だちが私にプレゼントを送てくれた。(ソト→ウチ)  
9) \*私は友だちにプレゼントを送てくれた。(ウチ→ソト)  
cf.私は友だちにプレゼントを送てあげた。(ウチ→ソト)

恩恵の方向性ということを考えると「てもらう」と「てくれる」は同一である。では両者に意味的な違いは無いのだろうか。

伊藤 (2010) では次のように述べている。

- 10) 「てもらう」と「てくれる」の意味の差  
[語レベル]  
→形式の持つ意味特徴では「てくれる」と「てもらう」の差はない  
伊藤 (2010 : 18)

では次のような例はどう解釈すべきだろうか。

- 11) あの先生、よくも私に赤点をつけてくれたわね。  
12) 反抗的態度を取るなら、もっと赤点をつけてあげるわよ。

このような「てあげる」「てくれる」の用法は反語的なものと考えられる。一方「てもらう」にはそのような用法はない。

- 13) 先生にわざと赤点をつけてもらった。  
(お願いして自分のためにそうしてもらった。)

先行研究の中には反語的な「てもらう」の例として、次のようなものがよく引用されている。

- 14) そんなことを言ってもらったら、困ります。

しかしこの「てもらう」が主節ではなく従属節に生起していることに注意すべきである。

従属節中では上記の視点制約も破られることがあるからだ。

- 15) 家の犬は私がいつもおいしい餌を作てくれるので、私が帰宅するとすぐ尻尾を振って寄ってくる。

視点制約や意味の制限に関しては、主節にこれらの動詞が生起した時に限り論じるべきである。

以上をまとめると次のような対比が出来る。＋は肯定的意味、－は否定的

意味を表す。

- 16) 「てあげる・てくれる」vs「てもらう」  
 てあげる、てくれる : 意味的には±  
 てもらう : 意味的には+

従って、「てもらう」と「てくれる」には意味の差があるのである。  
 さらに面白いことが観察されている。補助動詞としてではなく本動詞として使われたときのこれらの動詞の意味の差である。

- 17) 病気をもらう、ファールをもらう、赤点をもらう  
 18) \*病気をあげる／くれる \*ファールをあげる／くれる \*赤点をあげる／くれる

補助動詞の時とは逆に「をもらう」にはマイナスの意味も生じ得るのである。

- 19) 「をあげる・をくれる」vs「をもらう」  
 をあげる、をくれる : 意味的には+  
 をもらう : 意味的には±

前節の考察の結論である「てあげる／てくれる」と「てもらう」の構造の差が、やはり意味の差として存在するのである。

## 4 行為者の位置づけ

話者の他者に対する願望を表す構文に「てほしい」構文がある。

- 20) 母が バンコクに来る。→ 母に バンコクに来てほしい。  
 21) 空が 晴れる。→ 空が 晴れてほしい。

この「てほしい」構文では、行為者が人であれば「ニ」で、モノ、コトであれば「ガ」でマークするという特徴がある。インターネット上で「てほしい」で検索すると以下のような例文が出てくる。

- 22) 飼い主に守ってほしい7か条  
 23) 子供に将来なつてほしい職業ランキング  
 24) あなたは、子どもが学校教育でどのようなことを身につけてほしいと思いますか。  
 25) 中国も「できるだけ戦争が長引いてほしい」(記事の見出し)  
 26) 早く夏休みが来て欲しい。

ここで「ニ」と「ガ」の揺れがあるのは23)と24)の「子ども」が行為者である場合である。他にも次のような例がある

- 27) a. みんなに 分かってほしい。  
b. みんなが 分かってほしい。

これらの「子ども」や「みんな」に関しては、特定の人を想起出来るなら「ニ」、一般的な不特定の人を想起するなら「ガ」が使用されるようである。この問題に関しては将来の課題としたい。

この助詞の選択の差から分かることは、それぞれの名詞句の機能である。日本語文の項 (argument) の中には「外項external argument」と「内項internal argument」が区別される。

- |                          |            |
|--------------------------|------------|
| 28) 太郎が肉を焼いた。[太郎 [肉 焼く]] | 太郎：外項、肉：内項 |
| 29) 肉が焼けた。[肉 焼ける]        | 肉：内項       |
| 30) 太郎が走る。[太郎 [走る]]      | 太郎：外項      |
| 31) 花が咲く [花 咲く]          | 花：内項       |

統語的に語彙範疇により近い位置に生起する項は内項で意味上の目的語となる。より遠い位置に生起する、意味上の主語になるものは外項に分類される。これらは、文の表面的な主語・目的語と項の意味役割がしばしば一致しない場合などに有効な概念とされている。

自動詞の場合は同じ主語でも非能格自動詞（意志的な動作を表す）の場合は主語は外項とされる。非対格自動詞（意志的でない状態や現象を表す）の場合、主語は内項とされる。

では「てもらう」「てくれる」構文で外項、内項の振る舞いの違いを考察する。

- 32) 母が バンコクに 来る。(母：外項)  
32') 母に バンコクに 来てもらった。  
32'') 母が バンコクに 来てくれた。

- 33) 空が 晴れた。(空：内項)  
33') \*空に 晴れてもらった。  
33'') 空が 晴れてくれた。

日本語の場合「外項」になるのはほとんどの場合、意思をもつ人間である。「てもらう」が共起するのは外項名詞のみで、内項の「ガ」格名詞とは共起しない。そのため次のような表現も可能になる。

- 34) 母に バンコクに 来てもらおう。

一方「てくれる」構文は外項の「ガ」格名詞とも内項の「ガ」格とも共起する。その点では上記の「てほしい」構文と共通する。

35) (打った打球が<sup>ガ</sup>) ホームランになってほしかった。

36) (打った打球が<sup>ガ</sup>会心の当たりではなかったが<sup>ガ</sup>) ホームランになってくれた。

上記の23)～27) が「てもらう／てくれる」と共起するかどうか、確かめておく。

22') 飼い主に原則を守てもらった。／飼い主が原則を守てくれた。

23') 子どもに親の望む職業についてもらった。／子どもが親の望む職業についてくれた。

24') 子どもにいろんなスキルを身につけてもらった。

／子どもがいろんなスキルを身につけてくれた。

25') \*戦争に長引いてもらった。／戦争が長引いてくれた。

26') \*夏休みに来てもらった。／夏休みが来てくれた。

以上の考察から、「てくれる」構文は内項、外項両方の「ガ格」名詞と共起するが、「てもらう」構文は外項のみと共起することが分かる。

この外項のみと共起する「てもらう」構文の特性は他の構文にも共通する。例えば「迷惑受け身文」である。

37) 私の席の前に大きな人が座った。

→私の席の前に大きな人に座られた。

38) 地下鉄で誰かが私の足を踏んだ。

→地下鉄で誰かに足を踏まれた。

内項の「ガ格」名詞の場合は非文法的となる。

39) 家の前に大きなビルが建った。

→\*家の前に大きなビルに建たれた。

内項である「ガ格」名詞が迷惑受け身文と共起する例として、次の文があるが、これは例外的だと見做すべきである。

40) 一日中、雨が降った。

→一日中、雨に降られた。

一方、元の文の内項が受け身文の主語になり、元の文の外項が「～によって」で表現されると、そこには「迷惑」の意味が現れず、いわゆる「中立受け身文」になる。

41) エジソンが電灯を発明した。

→電灯はエジソンによって発明された。

以上に加え、外項「ガ格」名詞と共起する構文には他にも「使役構文」がある。

42) 社員が大阪出張に行った。

→社長は社員を／に 大阪出張に行かせた。

使役構文で内項「ガ格」名詞と共起するのは非意図的行為の場合である。

43) 冷蔵庫で肉が腐った。

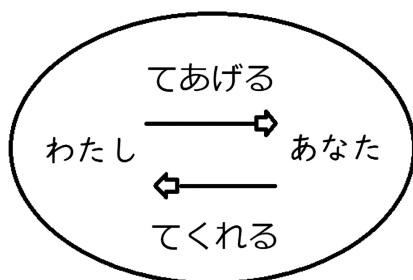
→冷蔵庫で 肉を／＊に 腐らせた。

この場合も内項名詞は「ニ」ではマークされない点で「てほしい」構文と共通する。「ニ格」名詞は殆どの場合、人である外項名詞に後接しているのである。

## 5 「発話の場」の違い

山下（2021）では日本語授受動詞の発話の場の違いについて考察した。そして第一人称と第二人称のみが関与するコミュニケーションの場（「直示的な場」）では、「てあげる／てくれる」のみが生起することを論じた。

44) 第一人称と第二人称のコミュニケーションの場

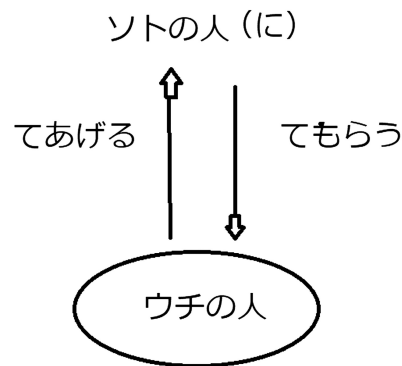


このような発話の場では、他に次のような語彙も生起するが、すべて「くれる／てくれる」のバリエーションと見做すことができる。

45) くれ、ちょうだい、くれるな

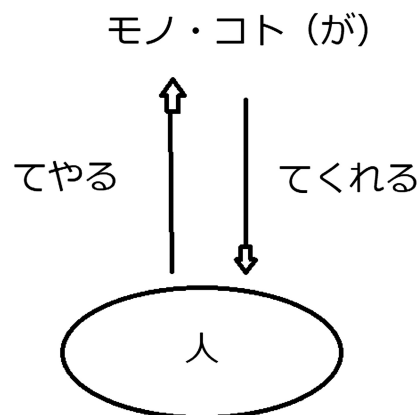
ところが、コミュニケーションの場を「ウチ」と「ソト」に設定すると、いわゆる「やりもらい」、すなわち「てやる／てもらう」が中心となるのである。

#### 46) ウチの人とソトの人のコミュニケーションの場



さらに、人を越えたモノの存在を考慮に入れると次のような図式も可能となる。

#### 47) 人とモノ・コトの叙述の場



これら3種類の発話の場を設定した上で、「てくれる／てもらう」の使用について考察を進める。

山口 (2008) では「てくれる／てもらう」と「感謝、謝罪」表現との共起関係を扱っており、その出発点として以下の3種類の文を挙げている。

- 48) Vて {くれて／\*もらって} ありがとう。
- 49) Vて {\*くれて／もらって} すみません。
- 50) Vて {くれて／もらって} うれしい／嬉しい (です)。

他の先行研究でも指摘されているように「ありがとう」という感謝の表現と共起するのは「てくれる」表現のみだとされる。ところが敬語化が関わってくると、様相が異なってくる。

51) 多くのみなさんが来てくださってありがとうございます。

52) 多くのみなさんに来ていただいてありがとうございます。

敬語化された状況では 51) よりも 52) の「ていただく (←てもらう)」表現の方がより多く使われていると山口 (2008) では報告している。さらに 51) と 52) が混交した次のような文も良く使われていることも指摘している。

53) ?多くのみなさんが来ていただいてありがとうございます。

この現象を「発話の場」の観点から考察してみる。

54) 来てくれて、ありがとう。

この文は親しい間柄の人間同士の会話であることが想像出来る。つまり上記の 44) のようなシチュエーション下での発話であると見做すことができる。この場合、「てくれる」のみが生起することとなる。「てもらう」はこのままの形式では現れない。ところが敬語化が関わると状況は変わる。

52) 多くのみなさんに来ていただいてありがとうございます。(再掲)

この発話は当然ウチとソトの人間の距離を若干置いた会話であると想定できよう。上記の 46) のシチュエーションである。その場合は「ソト→ウチ」の行為の方向性に従って、「てもらう」が使われるのであろう。

もちろん「行為の方向性」の観点からは「てくださる (←てくれる)」も生起可能なのだが、「ウチ／ソト」の人間関係が反映されるとき「ていただく (←てもらう)」のほうがふさわしいと考えられる。

先行研究においても、「てもらう」表現のほうが「てくれる」表現より丁寧度が高いとの主張が見られる (伊藤 [2010] 等)。例文 46) のようなシチュエーションが念頭にあれば、当然このような文脈では「てもらう」が使用されることになるのであろう。

ただし、これらは「ありがとうございます」という一種の話者の感情表現と共起した場合である。これが、過去の事実の叙述のようになると、「てくれる」表現も自然に現れる。

55) 先日のコンサート、びっくりするくらい多くの人が見てくださった。

オンラインでの視聴率もかなり伸びてくれた。

このシチュエーションは 47) の場に対応し、「ウチ／ソト」の関係より、「人／モノ、コト」の叙述の場に近くなっていると考えられるのである。

## 6 最後に

本研究ノートで述べたのは次の点である。

- (1) 「てもらう」構文は「てくれる／てあげる」構文と根本的に異なる。
- (2) 「てもらう」構文の行為者は「外項」に限られるが、「てくれる」構文の行為者は「外項」と「内項」の両方の場合がある。
- (3) 「てもらう」と「てくれる」の生起する発話の場は異なっており、それが両者の丁寧度にも影響を与えている。

本研究で、「てもらう／てくれる」構文と「てほしい（願望）」「～される（受身）」「～させる（使役）」との関連について触れたが、これまでの考察はまだ不十分である。この点の理解を深めることが今後の課題となる。

### 参考文献

- 伊藤博美（2010）「授受構文における受益と恩恵および丁寧さ：「てくれる」文と「てもらう」文を中心として」、『日本語学論集』第6号、東京大学大学院人文社会系研究科、pp4-32  
[https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/record/35565/files/nihongo06\\_07.pdf](https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/record/35565/files/nihongo06_07.pdf)
- スリーエーネットワーク（2012）『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版』
- スリーエーネットワーク（2013）『みんなの日本語 初級Ⅱ 第2版』
- 鄭 光峰（2013）『イメージ図式による授受動詞の指導法 ―与え動詞「あげる・くれる」を中心に―』拓殖大学大学院 言語教育研究科、言語教育学博士論文、  
[https://takushoku-u.repo.nii.ac.jp/?action=repository\\_uri&item\\_id=98&file\\_id=20&file\\_no=1](https://takushoku-u.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=98&file_id=20&file_no=1)
- 森越一世（1994）「授受動詞の指導方法―「くれる」を第一に導入する試み―」『北海道大学留学生センター年報』2. pp153-165
- 山口真里子（2008）「授受補助動詞の使用制限に与える敬語化の影響について：『くださる』『いただく』を用いた感情表現を中心に」『国際広報メディア・観光学ジャーナル』6巻、pp69-90  
<http://hdl.handle.net/2115/34577>
- 山下好孝（2021）「直示と参照の観点から見直す日本語授受表現」、『国際広報メディア・観光学ジャーナル』33巻、北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院、2021年10月29日pp113-127  
<http://hdl.handle.net/2115/83309>